

## 臨床工学技術部

部長 碓氷 章彦（准教授）

## 人工呼吸器や手術室の機器トラブルにも迅速に対応

安全で良質な医療サービスが提供できるように研鑽を積んでいます。これが当部としての基本目標です。

## 業務体制

正規職員13名、任期付き正職員7名の合計20名で、循環器系および代謝系の診療支援業務と機器管理業務を行っています。また、夜間・休日の緊急時にも対応できるように24時間待機体制をとっています。

## 業務内容

業務内容は血液浄化業務、人工心肺業務、心臓カテーテル検査業務、ペースメーカ業務、ME機器中央管理業務です。他にも、人工呼吸器の病棟ラウンドチェックや集中治療室や手術室の機器トラブルにも対応しています。



## 特色

人工心肺装置を用いた心臓外科手術では大血管手術症例が多く、循環器系ではカテーテルアブレーションおよびペースメーカや植込み型除細動症例など、高度医療機器を駆使し、診療支援を行っているのが特徴です。



## 業務実績

2011年度診療支援業務として、血液浄化業務3,383例、人工心肺業務257例、経皮的冠動脈形成術184例、カテーテルアブレーション業務358例、ペースメーカ業務145例、ペースメーカフォロー1,974例を行いました。

## その他の取り組み

血液浄化や体外循環など関連する学会、研究会へ積極的に参加し、最先端医療の情報収集を行い、診療支援への提供を心がけています。



## 脳卒中医療管理センター

部長 水野 正明（病院教授）

## 連携医療体制の確立と脳卒中医療の質の向上を目指す

東海地区の医療機関を情報化技術で連結し、患者・市民中心の脳卒中連携医療の確立を目指しています。

## 業務体制

脳卒中医療担当医を中心に、脳卒中に対する新しい診断法および治療法の確立に努め、その有用性を検証します。

## 業務内容

電子基盤に支えられた医療機関間ネットワークの運用を通して、関連施設などにおける脳卒中医療を診断および治療の両面から支援し、脳卒中連携医療体制を確立するとともに脳卒中医療の質の向上を目指します。

## 得意分野

脳卒中医療分野を対象に、電子基盤上で医療情報の標準化（HL7, CDA, DICOM）および共有化（XDS）技術を開発し、脳卒中連携医療の有用性を国内で最初に実証しました。

## 業務実績

CT, MRI 画像を携帯電話に伝送し、脳卒中の急性期医療を支援するシステムは、1,000件以上の運用実績があります。また、当センターで開発された医療情報の標準化および共有化技術は国内の標準仕様になりつつあります。

## その他の取り組み・先進医療

当センターの地域医療情報連携システムNAGOYA-RHIE (Regional Health Information Exchange) は海外からも高い評価を受け、日本版EHRの構築にも役立っています。

